

## 関西武夫原会

常任幹事 児倉 静二 (法19回卒)



関西武夫原会総会及び懇談会が、平成18年11月17日、大正ロマンの香り漂う旧男爵邸跡「太閤園」にて、第1回卒業生から平成18年卒まで総勢70余名の参加者を得て、盛大に開催されました。

酒井政敏常任幹事の司会のもと、総会の部は谷正道会長の挨拶に始まり、所定の議案も早々に済ませて懇親の部に、まずは遠方より出席いただいた来賓の方々の紹介、そして中島最吉熊本大学武夫原会新会長並びに九鬼義英東京武夫原会会長にそれぞれ軽妙洒脱な代表祝辞をいただき滞りなく進行。上田明浩常任幹事の乾杯を合図に、いよいよ宴の始まりです。

今年は、「語らいの夕べ」を謳い文句とする事務局の計らいで歓談時間もタップリ。「熊本名物」の馬刺しやからし蓮根を酒の肴に、同期、同郷、先輩後輩そして異業種交流と同窓の輪があちこちに広がりました。又、今年は例年以上に若い人達や女性の参加者が数多く、時代の移り変わりを感じさせる年でもありました。

そして終盤は待望のピンゴゲーム。肥

後椿からワイン、ウイスキー、日本酒、焼酎、和菓子、朝鮮飴、ホテル宿泊券、花のギフト券、食事券、図書券、ゴルフ優待券、バターなど、果ては換気扇用フィルタからぬいぐるみ、ボディブラシまで100点を越える景品が集まり、歓声が絶えないひとときでした。心づくしの品物を提供頂いた皆様に感謝、感謝。

瞬く間に時間も過ぎて、愈々五高寮歌「武夫原頭に草萌えて」でフィナーレです。今回は松田常任幹事の転勤で、不肖私(筆者は熊大応援団出身です)が巻頭言を切る大役を仰せつかりました。ステージの上は若き日の青春群像、老若相乱れての乱舞、蚤声は例年にも増して。

結びは川添正實会長の熱のこもった閉会の辞にて、来年の再開を約し、お開きとなりました。各会各層にてご活躍の500名近い関西武夫原会会員の皆様、是非、来年の例会にご参加下さい。心からお待ちしています。

(こぐら せいじ)